


NO! リニア

No. 1 2 6

2021年 7月 26日

J R 東海労働組合

J R 東海労HP
にアクセス 



調布の二の舞いはごめんだ! 東京都民がリニア工事差し止め訴訟

東京都大田区と世田谷区の住民24人は7月19日、J R 東海を相手取りリニア工事の差し止めを求め東京地裁に提訴しました。提訴した住民は、リニアの地下トンネル工事現場の直上や近隣に住む人たちで、「終(つい)の住処(すみか)で振動や騒音が起きるなんて。陥没すれば死傷者が出る。それを思うと安心して暮らせない」と、調布(外環道工事が原因の陥没事故)の二の舞いを恐れています。

J R 東海が行った住民説明会では、「弊社の工区に外環のような特殊な地盤はない。だから追加ボーリング調査は不要。工事は24時間体制でやる」と明言したため、参加した住民からは「納得できない」「昼も夜も振動が続くのか」など、反発の意見が相次ぎました。しかし、J R 東海は説明会后、「住民の理解を得た」と事実と反する見解をマスコミに発表したのです。こんな姿勢を許せますか?

リニア建設を認可するにあたり、国土交通省は「住民の理解を求めること」を条件としたはずですが、今回の東京をはじめ、沿線各地で工事差し止めや建設認可の取り消しを求めて訴訟が相次いでいます。つまり、国交相の言うことを無視し、傲慢な態度で住民を蔑ろにしている証左と言えます。直ちにリニア建設は中止すべきです。

J R 東海労は、裁判に決起した住民の皆さんに連帯して闘います。